

民法研究 I

選択 2単位

長谷川 成海

1. 授業の概要(ねらい)

債権法のうち、契約および不法行為を中心に、プロブレムメソッドにより学修を深める。

2. 授業の到達目標

解約および不法行為について、応用的思考を身に付ける。

3. 成績評価の方法および基準

報告内容を中心にして、授業への参加および貢献度を加味し、総合的に判断して評価する(100%)。

4. 教科書・参考文献

教科書

千葉恵美子他 『Law Practice 民法Ⅱ 債権編 第4版』 商事法務

参考文献

『民法判例百選Ⅱ 債権』 有斐閣

5. 準備学修の内容

各回の授業で取り扱うテキストの単元の理解には、判例研究が欠かせない。事前にテキストに提示されている参考判例につき、参考文献および判例を読んでおく必要がある。

6. その他履修上の注意事項

出席は欠かせない。また、受講生の報告を中心に授業を進めるので、主体的参加が必須となる。

7. 授業内容

- 【第1回】 イントロダクション
- 【第2回】 定型約款の拘束力
- 【第3回】 契約交渉の一方的破棄
- 【第4回】 契約締結の際の説明義務違反
- 【第5回】 安全配慮義務違反
- 【第6回】 種類債権の履行の提供と受領遅滞
- 【第7回】 解除と原状回復・損害賠償
- 【第8回】 売買の危険負担
- 【第9回】 売買目的物の種類・品質に関する契約不適合責任
- 【第10回】 賃貸目的物の所有権の譲渡
- 【第11回】 賃貸借契約の終了:信頼関係破壊の法理
- 【第12回】 請負における契約不適合責任
- 【第13回】 委任の任意解除
- 【第14回】 金銭消費貸借
- 【第15回】 まとめ